



成長と利益のバランスを確保し、
幅広いステークホルダーの
ご期待にお応えしていきます。

副社長執行役員 CFO
池谷 光司

2017年度実績について

2017年度は、3カ年の中期経営計画「DRIVE FOR GROWTH」をスタートさせ、利益ある持続的成長への基盤づくりのため、「燃費不正問題で傷ついた信頼の回復」「業績をV字回復軌道にのせること」「新車立ち上げの成功」の3つの重点目標に取り組んだ1年となりました。

当年度の販売台数は前年度を上回り、前年度比17万5千台増加の110万1千台となりました。販売台数の増加を受け、売上高は前年度比2,858億円増加の2兆1,924億円となりました。営業利益は、販売台数の増加にコスト低減効果と市場措置費用の減少が加わり、前年度比931億円増加の982億円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、3,061億円増加し1,076億円の黒字回復を果たしました。

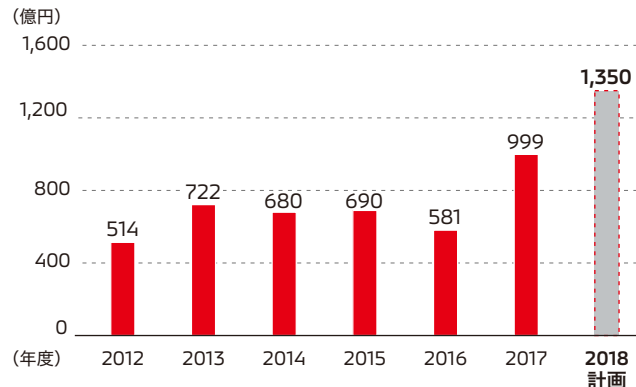
2018年度の見通し

2018年度の業績見通しは、新型車投入やアセアン、中国での販売拡大により、販売台数は前年度比14万9千台増加の125万台を計画しています。これに伴い売上高は前年度比2,076億円増加の2兆4,000億円を見込んでいます。営業利益につきましては、販売関連による410億円の好転、コストの低減等による260億円の増益を見込みますが、研究開発などの費用増加や円高の影響を想定し、前年度比118億円増加の1,100億円を計画しています。親会社株主に帰属する当期純利益は前年度比24億円増加の1,100億円を計画しています。また、配当につきましては、2018年度におきましても成長投資とのバランスを考慮しつつ、2017年度実績と比べ1株当たり3円増配の20円を予定しています。

業績の実績と見通し

	2017年度実績	2018年度見通し
販売台数(小売)	1,101千台	1,250千台
売上高	21,924億円	24,000億円
営業利益	982億円	1,100億円
親会社株主に帰属する当期純利益	1,076億円	1,100億円

設備投資



2018年度の取り組み方針

2017年度は新型車を計画通りに市場投入し、業績も計画を上回るなどV字回復軌道に向け順調な滑り出しとなりました。その足取りをより確かなものにするために、中期経営計画の2年目にあたる2018年度は、三菱自動車にとって大切な一年となります。

2018年度は「利益ある持続的な成長に向けた基盤づくり」のための積極的な投資を継続すると同時に「規模の拡大」「利益率の向上」という目標に取り組めます。

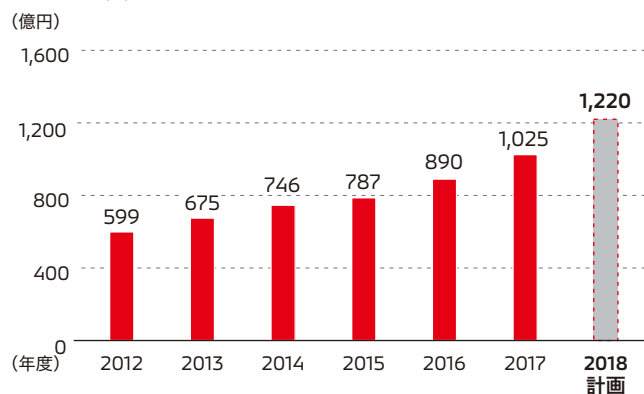
まずは売上高を伸ばすのと同時に、これまで不足していた将来成長に向けた投資を積極的に進めていきます。また、健全なキャッシュ・フローを維持し、必要な投資をきちんと行った上で、株主への還元を行う方針です。

設備投資につきましては、引き続き新商品や生産・IT投資を強化していきます。

研究開発は、今後投入する新型車開発の強化に加え、SUVや電動化技術に磨きをかけていくために、引き続き開発リソースの増強を進めます。

一方、魅力的な金融サービスを幅広く提供することで国内のお客様の自動車購入時のサポートや購入後のアフターサービスを強化するために、2018年4月に販売金融会社のMMCダイヤモンドファイナンス株式会社を完全子会社化しました。これにより、金融と一体化した販売施策を推進し国内販売体制の強化を図ります。

研究開発費



現預金／有利子負債

